

学生寮新築・改修 環境改善へ

パイロット養成課程のある崇城大（熊本市西区）は、熊本空港滑走路に隣接する空港キャンパス（菊陽町）の学生寮を新築・改修し、学生の生活環境改善を図る。来年7月に利用開始予定。

崇城大 空港キャンパス(菊陽町)

談話や学習室、騒音対策も

宇宙航空システム工学科（289人）のうち、空港キャンパスを利用する2専攻の学生は計160人。西区の池田キャンパスで基礎知識を学んだ後、航空整備学専攻は2年間、航空操縦学専攻は3年間で訓練のために全員寮で過ごす。既存寮2棟（計194室）は、全日空（ANA）のパイロット養成宿泊所を大学が2001年に買収。いずれも30年以上が経過し老朽化していた。

新築寮は鉄筋コンクリート4階建ての2棟で渡り廊下つながる。延べ床面積は3895平方メートル、1000室。部屋の面積を現在の2倍となる約25平方メートルにする。各部屋に浴室とバルコニーを完備。談話室や学習室を設け、騒音対策も施して学習環境を整える。

既存寮は来年7月以降に改修し、2棟計94室を設ける。共同浴室や食堂として利用中の共用棟も改修し、食事が取れる共用スペースにする。いずれも25年度末終了を見込む。

11日は工事の安全を願う地鎮祭を現地で行い、大学と工事関係者ら約30人が出席。中山峰男理事長は「立派なパイロットとして活躍できるよう、学生がこの寮で希望を持って就学できる」と期待している」とあいさつした。（草野太一）



写真上から、新築される学生寮のイメージと部屋のイメージ（崇城大提供）



掘削が進む学生寮新築の現場。奥の建物が既存寮で、右手前は共用棟



地鎮祭に出席した関係者
11日、菊陽町